

# 第13回 全員発表会 in 熱海!

日時：平成30年7月15日(日)、16日(月)  
場所：静岡県熱海市



熱田 互  
(東京都)



上原 久晴  
(京都府)



7月15日(日)・16日(月・海の日)に、静岡県熱海市において、日本インプラント臨床研究会第13回全員発表研修会が開催されました。

今年は全129演題(口演106題、ポスター23題)が集まり、加えて全員参加型ディスカッションと題したシンポジウムおよび大久保力廣教授(鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座)を招聘しての特別講演が行われました。

口演発表は発表時間4分、質疑応答2分と例年通りの過酷さ(!)でした。

しかも大久保教授には初日よりご参加いただき、自分も臨床医だからぜひ発表をすと言っていたいただき、会員と同じ条件で口演発表もされ会場は大いに盛り上がりました。

シンポジウムは全員参加型ディスカッションと題して、サージカルガイド、最新マテリアルから経営についてなど多岐に渡り参加者のアンケートを取り、当会における現在の潮流や課題、未来の方向性などを分析し、大変興味深い意見交換をすることができました。特に歯科衛生士に関するアンケートでは、当会会員の医院において学会専門歯科衛生士在籍率が高いような結果となり、他所にはない当会の取り組みであるインプラント・ハイジニスト育成コースの成果が出

ていると感じました。ものすこく余談ですが私の妻も当コース受講生で、無事、専門歯科衛生士を取得させていただきました。田中会長が学会担当理事に就任されることもあり、今後ますます専門歯科衛生士の育成に加え、若い歯科衛生士にとって憧れの資格になることを期待しております。

特別講演は大久保教授に「理想的な義歯を求めてー補綴のアドバンスドテクニクー」と題してご講演いただきました。精密な補綴を行ううえでのテクニクに加え、最新の3Dプリンターでの義歯作製をご提示いただきました。

本研修会を通じて、数年前までは少数だったDICOMデータから作製した外科用ステントがスタンダードとなり、若手ほど使用率が高いように感じました。その問題点も少なからず存在しますが、その対応をどうするかについての議論もあり、大変勉強になりました。上部構造の作製については、まだ光学印象の普及率はそこまで高くはないようでしたが、以前と比較すると確実に増えてきており、やはり今後のスタンダードになりそうだと感じました。

初日の最後に行われた懇親会は大いに盛り上がり、その後の2次会、3次会と夜を徹して臨床話に花が咲きました。そして来年は、当会創設45周年と記念の年となるため、ぜひ当会に所属している会員全員で全員発表会を行い、盛り上げていければと考えています。(2019年7月14日15日、東京ミッドタウン日比谷です!)

最後に、講演を賜った大久保教授はじめ、研修会を準備された執行部、参加された会員および関係者各位に厚く御礼申し上げ、稿を終えたいと思います。みなさま、ありがとうございました! 熱田 互

## 第13回 全員発表会



今年も熱海金城館にて第13回全員発表研修会が開催され、口頭発表106題、ポスター発表23題もの会員発表がおこなわれました。

今年も多くの特門医を輩出する当会らしく、即時埋入や骨造成、上顎洞底挙上術やIOD、矯正を絡めた咬合再構成等、それぞれが手にした材料や技術を駆使して、審美的に長期的に機能する上部構造を求めた素晴らしい発表ばかりでした。

咬合再構成を行う途中で開口障害を発現し、スプリントを用いて機能回復をはかった症例や、メンテナンス中に歯根破折をきたした事から、偏位した下顎の改善が不十分だったと診断し、再度最終補綴まで作製した症例等、経験豊富な先生でも起こってしまうトラブルもあること。またその患者とどの様に向き合い、トラブルをどう解決されたのかを発表を通して学べることは、経験の浅い私達にとっては貴重で、この発表会の大きな魅力です。

また口頭発表にも御参加頂きました鶴見大学歯

学部長の、大久保力廣先生による特別講演「理想的な義歯を求めて 一補綴のアドバンステクニク」では、IODを含む有床義歯の診察と設計法を解説いただき、金属構造義歯やピエゾグラフィー、機能的咬合印象を動画を交えて解りやすく説明していただきました。

初日最後のシンポジウム「全員参加型ディスカッション」では、ユニットの台数や前歯1本の費用から、骨造成の移植材の種類や併用する物、ガイドドサージェリーの頻度等、会員のインプラント治療に関する平成30年現在の状況が出席者で共有されました。

毎年のことながら、明日からの臨床に役立つことや、この先数年で自分が何を身に付ければいいのかを教えてもらう発表研修会でした。この様な会を企画運営して頂きました役員の方、事務局および関係者の方々に深く感謝いたします。

上原 久晴